

わがゼミナール

高橋 正

正月早々、母校で「後ゼミ」と称する会合があった。生憎と悪性の風邪にやられて出席出来なかったが、年次を問わず、大学時代に同じゼミで学んだ卒業生が年一回集まって、恩師の講義を聴いたり、自ら教壇に立ってレクチャーする楽しい会で、卒業後三〇年以上経った今でも、出来るだけ出席するよう心掛けていた。

恩師との出会いは入学早々、学内の掲示板に「サルトルを原書で読むから、希望者は研究室に来るように」と貼り紙してあるのを偶々見かけたのがきっかけだった。

旧制中学時代からフランス語を嗜っていたおかげで、サルトル、デュルケム、コンラートについて行き、三年でゼミ履習となった時は一も二もなく恩師のゼミをとり、銀座や新宿で遊んでいない時は、ゼミ仲間と、研究室よ

りも御自宅の書齋に押しかけることの方が多くなった。おかげで、図々しくも、ゼミ・レポートも出さずに卒業してしまった。

しかし、只より高いものはない。それが負い目となって、今でも、著書、訳書、雑誌論文などを出すたびに、師のもとに持参せずにはいられないからだ。自業自得とはいえこの習慣、八十の半ばを超えられた師が身罷るまで止まらないだろう。それだけに、「後ゼミ」にもますますもって出ないわけにはいかない。

ところでこの頃、自ら教師になってみて、改めて、恩師の感化力の大きさに驚かされている。師はフランス社会学が御専門だが、自ら油絵や詩をものにされる芸術家肌の人で、かねがね、「テキストなどは自分で読めば事足りる。分らなければききにくればよろしい」と言っておられたし、講義は談論風発、話題

も古今東西、森羅万象に及び、説き来り、説き去る趣があった。それは無知な若者に対する知的挑発であったと言つてよい。

ジャーナリスト上りの私には、もとより師の万分の一の学殖もなく、また理論的でもないが、気が付いてみると、私の講義もまた、しばしばテキストから脱線し、飛躍する。学生相手に話している最中、下町育ちでややべらんめえな点を除けば、語り口が師に似ているのに気付いて、われながら呆れることがある。

例えば、国際政治の講義で、ヤルタ会談の話をする。ローズベルト、チャーチル、スターリン三巨頭や同行の外交専門家が鳩首談合しても決着のつかなかった混み入った政治問題は程々にして、三巨頭の人物論に入る。それも、スターリンなら、奥さんのアリリユーエワは表向き自殺したことになっている

が、実は亭主の政治路線に反対してKG B
（秘密警察）に殺された裏話とか、孫のアリ
リユーニフが十数年前、麻薬中毒のため十代
の若さで死んで、その墓がモスクワ市内旧ノ
ボジエービッチ修道院——ここにはゴーゴリ
ヤチエホフ、フルシチョフらの墓もある——
の祖母の墓の筋向いにひっそり立っているが
これはモスクワつ子もあまり知らないとか。

チャーチルのことになれば、この巨人のカ
ミサンの名はクレメンタインといつて、第二
次大戦中、英国經由欧州戦線に向うGI（米
兵）に妙に人気があった。これは別に彼女の
母親がアメリカ娘であったからでも、彼女が
カラミティ・ジェーンのようなじやじや馬だ
ったからでもなく、アメリカ人ならクレメン
タインという名は誰でも知っているからであ
る。日本人でも知っている有名な西部劇「荒
野の決闘」の主題歌、あれがほかならぬ「い
としのクレメンタイン」だからだ。「マイ・
ダーリン・クレメンタイン」知ってるかね。
知らなきゃ「雪山讃歌」、ダーク・ダックス
が歌っている山男の歌「雪よ岩よ、われらが
宿り……」あれなら知ってるだろう。あれの
元歌だ。

とところで、歌というの一番なら誰でも知

っているが、二番となると知っている奴は少
ない。少国民々だった頃は「愛国行進曲」
の三番まで全部歌えるから、スカルノ——故
インドネシア大統領、愛唱歌は「愛国行進曲」
だった。デビ女史は彼の第三夫人。（ここで、
インドネシア賠償や岸信介、川島正次郎らの
話に脱線）——の前でも恥をかかないですむ
が「いとしのクレメンタイン」の二番に、こ
んなくだりがある。“……Dwelt a miner,
forty-niner and his daughter Clementine”

この forty-niner これはクレメンタインの
父チャンは四十九歳という意味じゃないんだ
よ。〃四九年組み〃という意味。それも一八
四九年組みね。さて、一八四九年といえ、
アメリカ史では特別の意味を持つ年だ。なぜ
か、そう、カリフォルニアで金鉱が発見され
たあのゴールド・ラッシュの年だね。つまり
クレメンタインの父親はヒトヤマ当てようと
全米からはるばるカリフォルニアにやって来
た山師の一人だったんだ。

しかし、昔からヤマで当てた人間は少ない。
もちろん、クレメンタイン一家の末路も同様
だが、娘のおかげで歌に名が残っているだけ
でもまだましかもしれない。ところが、ここ
に、このゴールド・ラッシュで、名前ばかり

か金も残した男がいるんだ。その男の名はリ
ーバイ・ストロース。いわずと知れたリーバ
イ・ジーンズの創始者で、この男「金はヤマに
あるのではない。ヤマに群がる山師共にびつ
たりのデニムのパンツを売りつけることにあ
る」と考えた。これが図に当って、もうけて
た金を元手に今日の「リーバイ」を興したん
だね。

さすがユダヤ商人、目のつけどころが違う
などと感心している場合ではない諸君、ユダ
ヤ人だろうと誰だろうと、他人と同じことを
やっていたのではうだつが上らない。人が目
をつけないところに目をつけ、人のやらない
ことをやらなくては。おっと、これは水前寺
清子の歌の文句だったか……。

寅さんの口上めいて来たのでこのくらいに
するが、実は今年の〃後ゼミ〃では、この話
をするつもりだった。風邪で出席出来なかつ
たのは返す返すも残念だが、このエピソード、
すでに、私の授業をとっている学生たち
には話し済みである。とても学問とは言い難
いが、少くともこれが教育だというささやか
な自負は持っている。この話をしたら、恩師
は果して何と言っただろうか。

（二月十五日）